



第10号

府中市立
府中第七小学校
図画工作科
令和 3年
10月19日発行
伊藤 志帆

展覧会にむけて

展覧会の共同制作では、できるだけ子供の意見を取り入れています。子供たちが他の学習や生活でも、自分で決めて計画を立てて行動できるようになっただけでいいからです。意見が出なかつたり、「なんでもいよ。」と他人事になったりしないか心配でしたが、子供たちが意見を友達と交わしながら活動している様子が多く見られています。もちろん、必要な助言や指導はしていますが、とても生き生きとされていて、私も楽しい気持ちになります。

四年生

「五秒のかべをこえろ」では、五秒



以上転がるビー玉転がしを作っています。段ボールをどれだけ工夫して切ったりくつつけたりしてコースをつくるのが大切です。

四年生は、自由に型にはまらない発想のできる人が多くいます。そして、片付けも一生懸命でできる人がたくさんいます。授業が終わった後、自分から道具をきれいにそろえることができます。



一年生

「おおきな〇〇のうえで」では、絵本「ものすごくおおきなプリン」のう



えで」を読んで、自分なら何の上で縄跳びをするか、想像して絵を描きました。

ピザやパフェなどの食べ物の上だけでなく、大草原やお花の上を想像して描いた子もいます。一学期に学習した絵の具セットの使い方をふりかえってから、クレヨンと絵の具を組み合わせて使って描きました。色を混ぜて自分だけの色をついたり、水の量を調節して描くことができました。



五年生

「使って楽しい焼き物」では、釉薬をぬった作品が焼き上がりしました。釉薬を塗る体験は初めてだったので、つるつるになった皿の感触を楽しむ子もいました。陶芸用絵の具が、焼くと鮮やかに発色することも、体験を通して、気付いている様子でした。

まつばでは、図工室前の廊下のブラックライトを使った装飾をつ



くっています。組二組それぞれテーマを決めて絵や工作をつくっています。



三年生

「二十個でつくるう」では、引き続きのこぎりで木を切り、できた材料を組み合わせて思い付いた形をつくっています。思い付いた形に合わせて、斜めに木を切ったり、バランスを取りづらい形を固定したまま、ボンドが固まるようになるには、どうしたらいいか考えたりしています。

形ができた人から色塗りをしています。自分のイメージに合わせて色を塗っています。カラフルにしたり、わざとくすんだ色でまとめたりしています。



六年生

六年生は、ま



「豊か」に表現しよう」で図工で学んだことを生かして、展覧会に来た人が楽しめることを考えて、思い付いたものをつくっています。左の写真は、アルコール消毒のポンプのカバーです。口の中に手を入れて、頭の上のボタンを押すとアルコールが出ま



す。当日ぜひご使用ください。

